

平成 27 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

5 年一貫教育の特徴を生かした、看護専門職者を育成するための先進的なプログラムの研究開発

～「豊かな人間性」「確かな知識・技術」「科学的思考・判断力」と「生涯学び続ける力」を育てるために～

2. 研究の目的

本校では、時代が求める看護専門職者にとっての必要な力を、『人間性』『実践能力』『研究能力』とそれらの力を十分に活用し具体的な行動につなげる力（コンピテンシー）と考えている。

そこで本研究では「豊かな人間性」「確かな知識・技術」「科学的思考・判断力」と「生涯学び続ける力」の育成をテーマとして取組み、生涯にわたって看護の専門性を追求し続ける力を持った看護専門職者を育てることを目的とする。

3. 実施期間

契約日から平成 28 年 3 月 15 日まで

※ 最長で当該年度の 3 月 15 日（3 月 15 日が行政機関の休日に当たる場合は直前の開庁日）まで

4. 当該年度における実施計画

今回の研究では、広い視野に立った看護観を育てることを目指した「豊かな人間性」、臨床に即した看護実践能力を育てることを目指した「確かな知識・技術」、看護の探求、研究的態度を養うことを目指した「科学的な思考・判断力」の育成を 3 つの柱とし、さらにこの 3 つを総括した「生涯学び続ける力」を育て、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成することを目的としている。この研究を成功させるため、全教員が連携して以下の 4 つの取組に関わり、社会の要請に応えられる専門職の育成を目指し、評価・修正しながら研究を進めていく。

(1) 豊かな人間性

地域でのボランティア活動等を通して奉仕の心を育て、命の大切さについて考える豊かな人間性を養うとともに、自律した思考に基づいた倫理的な判断力を持ち、広い視野に立った看護観の確立を目指す。自己理解や他者理解を深め相手を尊重し思いやりのある心を持ち、自他の生命を尊重する態度を養い、看護のみならず広い視野に立ち人間を理解することのできる人間性を身に付けることをねらいとする。

○活動の概要

a. 花を育てる活動（高校1年）

「豊かな人間性」を育てる取組として、SPHの象徴である花壇で花を育てる活動を高校1年生が行う。隣接するさいたま桜高等学園生産技術科の生徒の協力を得ながら花を種から育て、水やりや草取りを行い、花壇の整備を行う。チームの一員としての責任感、協調性、連帯感、あるいは花を美しいと感じる感性など、生徒の心・感性に何らかの変容がもたらされることを期待している。

b. 夏休みボランティア活動体験（高校1年～専攻科1年）

高校1年生から専攻科1年生の全員が夏休みに1人1日以上ボランティア活動体験を行う。生徒は、それまでの経験をふまえた継続性のあるボランティア活動体験ができるように、事前に振り返りの機会を持つ。そして、自ら活動を選択し、活動先に連絡し、活動後には報告書を作成し、その体験を共有する機会を持つようにする。学年が進行するにつれて、専門性をふまえた活動が選択できるようにボランティアの紹介なども行っていく。これらの活動を通して、コミュニケーション力を養い、奉仕の心を育て、相手の立場に立って考える豊かな人間性を養うことをねらいとしている。

c. 釜石ボランティアスタディツアー（高校3年～専攻科1年希望者）

震災直後より被災地を支援している聖学院大学と連携し、夏休みの8月6日～9日の4日間、岩手県釜石市で、ボランティアスタディツアーを実施する予定である。昨年の「常盤ならではのボランティア活動を提案するプロジェクト」の提案である「自分で感じる」→「考えを深める」→「みんなに広げる」の2年目の活動として、常盤高校生が釜石の方々のニーズに合わせてできる活動を考えていく。訪問の後には、活動から学んだことや、今後の活動へ向けて報告書を作成し、校内のみならず地域での報告や交流を行い、活動を続けていく。

d. ライフステージからみた生命倫理に関する授業（専攻科1年）

生命倫理を扱う科目において、一斉講義の授業形態から、生徒が主体的に考えることを促す指導方法への転換を図るため、個々の教員レベルで授業改善を行う。そして、各科目の関連性の観点から、生命倫理に関する単元の配置を整理し、学習に系統性をもたらすカリキュラムを検討する。

大学との連携を行い、生命倫理や死生観に関する特別講義を大学に依頼し、生命誕生から死に至るまでの倫理的問題について考える機会を持つ。

e. 人間関係論の講義における演習の充実（専攻科1年）

対人関係を苦手とする生徒が増えている傾向にあることから、特別非常勤講師と連携し、当該講師の担当授業「人間関係論」の中で、人間を理解し対人関係を円滑にし、コミュニケーション力の向上をねらいとする演習の導入を検討する。

○豊かな人間性の活動のねらい

	花を育てる	夏休み ボランティア活動体験 (釜石ボランティアステイター)	倫理に関する授業	人間関係論
高校 1年	花壇づくりをすることで、協力、責任感、連携など人との関係やチームの一員としての立場を考えた行動をとることができる。 看護職者として常に自覚と責任をもって行動する態度の基礎を養う。	地域で行われている活動を知る。年代の異なる人とかかわりの中で相手を思いやる心や奉仕の心を育てる。 自分の経験を他者に伝えることができる。		
高校 2年		ボランティア活動体験を通して、他者を尊重する事の大切さや、自分の果たせる役割について考えることができる。 看護での学びを活かした活動について考えることができる。		
高校 3年		看護での学びを生かしたボランティア活動体験を行う。周囲の状況を判断し、その場に合わせた行動をとることができる。		
専攻科 1年		看護での学びを生かしたボランティア活動体験を行う。これまでの経験をもとに、自分なりの看護観を持つ。	人生各期において生命倫理における課題や問題点があることを理解する。	信頼関係を構築するためのコミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得させる。
専攻科 2年			臨地実習において、これまでに身につけた、倫理観や看護観に基づいた看護を実践する。	精神面を充実し、看護の職業に従事する者として、人間関係を円滑に保つためのコミュニケーションを実践する。

(2) 確かな知識技術

「デジタルコンテンツを用いたeラーニングによる授業の開発」

本校では、以前より協調学習やプロジェクト学習に注目し実践していたが、今回、更なるアクティブラーニングの指導法を研究すべく、看護教科において、ICTを活用し、eラーニングを導入した授業を実施することとした。それにより、生徒の看護知識・技術への一層の興味関心を高め、理解の深化に努めるとともに、生徒のICT活用能力向上を図ることをねらいとする。自学自習の習慣を身につけさせたい。

「病院・企業との連携による授業の開発」

生徒の確かな知識・技術の定着とその応用能力・実践的能力の育成のために、病院（臨床指導者・認定看護師）・企業と連携し教育内容の充実を図ることをねらいとしている。これまで、専攻科から実施していた、医師や看護師などの専門職者による授業を、高校生から取り入れ実施する。

○活動の概要

a. デジタルコンテンツを用いたeラーニングによる授業の開発（高校1年～専攻科2年）

デジタルコンテンツ「ナースングスキル」による予習を前提とした授業を展開し、自ら根拠を考えて看護技術を身につける習慣をつけさせる。授業改善の方法として、看護技術の授業におけるICT活用を実践する。生徒アンケートにより、今年度の課題としてあがった、デジタルコンテンツの内容と本校の授業内容との違いによる生徒のとまどいについては、デジタルコンテンツの動画の差し替えをするなど、既成のコンテンツを本校の授業や教科書に合わせた内容に改編し、本校用にカスタマイズすることで解消していく。また、シミュレーション教育等の手法を用いて臨地の場をイメージできるような授業の準備を進めていく。

b. 病院・企業との連携による授業の開発（高校2年～専攻科1年）

これまで専攻科だけで実施していた外部講師による授業を、高校2年生から学習進度や目標に合わせて以下のように効果的に導入していく。

2年生「基礎看護」：「医療現場における感染管理」「放射線の基礎知識」

3年生「基礎看護」：「フィジカルアセスメント（聴診法）」「災害看護」

「成人看護」：「がん看護」「放射線療法」

企業との連携については、専攻科において、看護の専門性に関連した活動をしている企業と連携ができるよう準備を進めていく（現在は、災害・防災関係を検討中）。

○確かな知識・技術の活動のねらい

	デジタルコンテンツを用いたeラーニングによる授業	病院・企業との連携による授業
高校1年	基礎看護の予習復習にナースングスキルを活用し、基礎的な知識・技術を身につけることができる。 タブレット端末を利用して看護技術を振り返ることができる	
高校2年	基礎看護の予習復習にナースングスキルを活用するとともに、臨地実習時に患者のケアに役立てることができる。	病院実習のイメージが付き、不安を軽減できる。 認定看護師等の授業を通して、患者が療養生活を送る中で、医療事故の発生を回避するための知識・技

	タブレット端末を利用して看護技術を振り返ることができる	術をイメージすることができる。併せて生徒自身の危険性を予測し、感染や放射線曝露から身を守ることができる。
高校 3年	基礎看護の予習復習にナーシングスキルを活用する。また、臨地実習を通して、受け持ち患者の状況に応じた援助を考えることができる。 タブレット端末を利用して看護技術を振り返ることができる	専門家による講義を受け、これまでの知識を関連づけ臨地（病院・災害時）をイメージするとともに、専攻科での専門家による授業への準備を進める。
専攻科 1年	シミュレーション教育等により、多重課題の状況に応じた患者をイメージし、課題を発見し、最善の解決方法や手技を考えることができる。	高校までの知識・技術を土台に臨地（災害時）の様子を具体的にイメージすることができる。
専攻科 2年	シミュレーション教育等により、多重課題の状況に応じた患者をイメージし、課題を発見し、最善の解決方法や手技を考え、実施し評価することができる。	

（３）科学的思考・判断力

研究的視点を取り入れた授業や学習活動を通して、専門職者に求められる研究能力の育成を図ることをねらいとする。

高校1年生から実験的要素を含んだ授業を展開し、学年進行とともに、データ収集、基礎的なレベルのデータ処理、文献検索やクリティークを経験させる。自分達で設定したテーマにそって、仮説を立て、その検証を試みる経験をするすることで、より高度な科学的・論理的な問題解決思考を育てていく。最終的には、個々の生徒に看護研究に取り組みせ、専門職者に求められる研究能力の育成を図る。意欲の高い生徒については、看護学の構築・発展に寄与し得るレベルの高い研究能力の育成を目指す。

○活動の概要

a. 実験的要素を含んだ学習体験（高校1年～専攻科1年）

看護を実践する上で必要不可欠な科学的根拠について、疑問や仮説にもとづいてデータを取り、科学的に考察する力を育てることを目標にしている。計器を用いて数値を測定したり、観察機器を用いて可視化したりする経験を通して、看護実践上の原則について論理的に科学的根拠を理解できるようにする。また、自ら仮説をたてて実験的要素を含んだ学習体験をし、得られたデータをもとに「考えてみる」経験を通して、科学的思考力を伸ばしたいと考えている。学年進行とともに、授業を通して感じた「疑問」を出発点にして、文献検索し、テーマを設定してデータを取り、仮説の検証を試みるなど、より高度な科学的・論理的な問題解決思考の育成につなげたい。SPHにおける各取組を有機的に繋げてゆくために、テーマ設定や手法を検討しながら進めてゆく。

b. 大学との連携による専門性の高い学習（高校1年～高校3年）

「看護」に関連した授業の一環として、大学と連携し、大学の施設・設備・実験機器を使用して、大学の指導者による専門性の高い実験・実習的講義を受講する機会をもつ。高校1年生では「基礎看護」に関連した内容、高校2年生は「栄養」に関連した内容、高校3年生は「薬理」に関連した内容で実施する。

c. 看護研究方法の学習（高校2年～専攻科1年）

高校2年生「看護情報活用」の授業の中で、文献検索の基礎、データ処理の基礎、統計処理の基礎やプレゼンテーションの手法等を学ばせる。高校3年生では、自分たちで設定したテーマにそって文献検索やクリティークを経験させる。専攻科1年生を対象に、「研究方法」に関する大学との連携講座を実施する。

○科学的思考・判断力の活動のねらい

	実験的要素を含んだ学習体験	大学との連携による 専門性の高い学習	看護研究方法
高校 1年	看護に関連した学びを通して、科学的根拠（エビデンス）の大切さがわかる。	「基礎看護」に関連した専門性の高い講座を受講し、実験手法やデータ収集の実際を経験する。	
高校 2年	授業を通して感じた「疑問」を出発点にして、看護に関連した実験的要素を含んだ学習体験を通して、看護技術の根拠を確かめる。	「栄養」に関連した専門性の高い講座を受講し、実験手法やデータ収集の実際を経験し、正確なデータ収集ができる。	文献検索の方法がわかり、CiNii等を利用して、初歩的な文献検索ができる。 初歩的なデータ処理ができる。
高校 3年	高校2年での経験を発展させ、「研究の問い」を意識したテーマを設定して、実験的要素を含んだ学習を体験する。	「薬理」に関連した専門性の高い講座を受講し、実験手法やデータ収集の実際を経験し、正確なデータ収集ができる。	設定したテーマにそって文献検索やクリティークを経験する。
専攻科 1年	文献検索を十分に行い、「食後の血糖上昇実験」を通して、得られたデータを分析することができる。		研究論文を読んで、評価の視点にそって考えることができる。 文献検索を行い、事例研究を進めることができる。 統計学を学び、基本的な統計処理ができる。
専攻科 2年			研究計画書に基づいて本格的に看護研究に取組み、論文としてまとめ、発表することができる。

（4）生涯学び続ける力

生徒が自らの力で課題を発見し、戦略的に課題を解決し、他者に提案する過程の中でコンピテンシーを高めると同時に可視化した学びの軌跡から自らの成長に気づきそれを原動力とした「生涯学び続ける力」を育成することをねらいとしている。本校のように15歳から20歳の多感な成長期にある生徒に対する5年間のプロジェクト学習では、更なる成果が期待される。

高校1年生より「プロジェクト学習」の手法を用いた課題解決の方法を学び、これを活用して「豊かな人間性」「確かな知識・技術」「科学的思考・判断力」を相互に関連づけ、自ら課題を発見し、

課題解決するために生涯学び続ける力を育てることを目指す。

○活動の概要

a. ポートフォリオの活用（高校1年～専攻科2年）

高校1年生が、パーソナルポートフォリオを作成し、入学時や他学年との交流の際の自己紹介に用いる。高校3年生以降はキャリアポートフォリオとして自分の将来の目標を達成するためにファイリングし活用していく。

b. プロジェクト学習（高校1年～専攻科2年）

高校1年生が4月に、鈴木敏恵先生より「プロジェクト学習」に関するオリエンテーションを受け、チームプロジェクトとして、「常盤高校生に役立つ防災マニュアルを提案します！」を開始する。7月～翌年2月にかけて、本校教員が主となり、鈴木先生のアドバイスを受けながら、マイプロジェクトとして「大切な人の健康を守る方法を提案します！」を実施する。マイプロジェクトのプレゼンテーションは、高校2年生や、高校3年生とも交流し、地域、病院関係、保護者に公開して行う予定である。高校2年生は、科学的・思考判断力の実験的体験の結果を根拠にした、臨地実習に役立つ提案をプロジェクト学習の手法を用いて行う。高校3年生は、自分の傾向を知り、臨地実習でのストレス解消法を提案するマイプロジェクトを行う。また、知識・技術を確かなものとして専攻科に進級するためのマイプロジェクトを行う。専攻科1年生は、看護職者の視点を持って、地域に役立つ提案、専攻科2年生は自分の看護観を見つめた提案を行う。

c. 教員研修

鈴木敏恵先生による教員研修を4回実施し、生徒の活動を振り返りながら、プロジェクト学習を進める上での具体的な指導を受ける。鈴木先生による、生徒への直接の指導は初回のオリエンテーションを含め、4回程度であり、本校の教員が鈴木先生のアドバイスを随時受けながら、主となって行っていく。

○生涯学び続ける力の活動のねらい

	ポートフォリオの活用	プロジェクト学習
高校1年	パーソナルポートフォリオを作成し、自分が力を入れて取り組んだことを可視化することで、自己肯定感を向上する。	活動に記載の取組を実践することにより、「イメージする力」「課題発見力」「課題解決力」「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」の5つの力を前年度よりも向上させる。
高校2年		
高校3年	パーソナルポートフォリオをキャリアポートフォリオにして継続させ、看護、医療に関する新聞・雑誌などの記事や書籍のリスト等を資料化し、自分が目指す看護像について意識啓発を図る。	
専攻科1年		
専攻科2年		

(5) 評価について

本研究で進めている4つのテーマに基づいた各取組は、本校にとっていずれも新たな実践であり、初年度の平成26年度当初に設定した各取組のねらいについても、実践をしながら再設定をする必要が生じたものもあり、試行錯誤の1年であった。したがって各取組の評価についても、ねらいの確定作業とともに、生徒にどのような力を身につけさせ、その力をどこまで伸ばすのか、また成果を可視化するための評価指標や到達目標の設定といった評価の在り方を検討すること自体が、研究初年度の大きな研究対象であった。

本欄では、各取組の評価について、定量評価と定性評価の側面から記述した。定量評価については、育てたい力、評価指標、評価方法及び平成30年度（研究最終年度）までの各年度の到達目標値を明らかにした。また、定性評価については、生徒の感想文や活動報告書等の記述をテキストマイニング等の手法を用いて、記述内容の変容、意識の傾向などについて分析し評価していく。なお、定量評価における数値目標の妥当性については、取組の実践と並行して常時検証を行い、必要な見直し・追加を行っていくこととする。

a. 豊かな人間性

○花を育てる活動

(ア) 定性評価

当該活動は、花を育てる行動から、チームの一員としての責任感、協調性、連帯感、あるいは花を美しいと感じる感性など、生徒の心・感性に何らかの変容がもたらされることを期待して行うものである。その変容の中身は、生徒一人一人異なるものであり、多様性があるため、学校が、当該活動を通じて伸ばさせる力として、具体の力を設定し、その変化を定量的に評価することになじまない。したがって、生徒の感想文を評価の材料とし、テキストマイニング等の手法を用いて、生徒の心・感性にどのような変容をもたらしたかを定性評価することとする。

○ボランティア活動

(ア) 定量評価

年度末に「育てたい力」に関するアンケート調査を行い、下記の項目についてこの1年間で身についた力を「とてもついた」「ある程度ついた」と肯定的な回答をした生徒の割合を指標とする。

平成26年度入学生を対象にして継続的に5年間調査する。

育てたい力	評価の観点	目標値
社会への参画力	自ら体験する活動を選び、申し込むことができる 地域における活動のニーズを把握できる	1年間で身についた力を「とてもついた」「ある程度ついた」と肯定的な回答をした生徒の割合が80%となることを目標値とする。また釜石ボランティアスタディツアー
事態への対応力	周囲の状況を判断しその場に合わせた行動を取ることができる	
礼 節	様々な年代の人と交流し、相手の心や状況をふまえた行動や作法ができる 他人のために尽くす奉仕の心を持つことができる	
共有する力	一人一人が持っている知識や経験を出し合い、分かち合うことができる	

		に参加した生徒は100%を目標値とする。
--	--	----------------------

(イ) 定性評価

定量評価を補足するための評価として、感想などからテキストマイニング等の手法を用いて生徒の変容に関する記載内容の変化を分析して評価する。

○「ライフステージからみた生命倫理に関する授業」について

この内容については、各科目の関連性の観点から、生命倫理に関する単元の配置を整理し、学習に系統性をもたらすカリキュラムを作成する予定であり、平成27年度においては、その準備期間とするため評価対象としない。

○「人間関係論の講義における演習の充実」について

この内容については、専攻科1年の特別非常勤講師による授業「人間関係論」の中で実施していく予定であり、平成27年度においては、当該講師との授業作りに向けた準備期間とするため評価対象としない。

b. 確かな知識・技術

○デジタルコンテンツを用いたe-ラーニングによる授業

(ア) 定量評価

年度末に「育てたい力」に関するアンケート調査を行い、下記の項目について1年間で身についた力を「とてもついた」「ある程度ついた」と肯定的な回答をした生徒の割合を指標とする。
平成26年度入学生を対象にして継続的に5年間調査する。

育てたい力	評価の観点	目標値 (%)				
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
情報活用能力	授業の予習復習にナーシングスキルを有益に活用できる	90%	90%	100%	—	—
	看護援助技術手順書作成にナーシングスキルを有益に活用できる	80%	90%	100%	100%	100%
	タブレット端末を用いて、看護援助技術映像等を視聴し、技術イメージ化できる	—	80%	80%	80%	80%
	タブレット端末を用いて、自分の実技を録画し視聴することで、自分の援助技術を振り返ることができる	—	80%	80%	80%	80%

(イ) 定性評価

具体的な変更については、テキストマイニング等の手法を用いて感想などから記載内容の変化を分析していく。またナーシングスキルの改編に関しては、本校の教育内容との違いによる生徒のとまどいが解消されているかについても評価していく。

○病院等との連携による授業

(ア) 定量評価

各授業の後にアンケートを実施し、下記の項目について1年間で身についた力を「とてもついた」「ある程度ついた」の肯定的回答をした生徒の割合を指標とする。

毎年該当学年を対象にして調査する。

「医療現場における感染管理」「放射線の基礎知識」(高校2年生)

育てたい力	評価の観点	目標値 (%)
臨地のイメージ力	病院実習のイメージが付き、不安を軽減でき、前向きに病院実習に取り組める	100%
知識力	病床での環境整備の必要性を理解し、実践方法をイメージできる	100%
	生徒自身の感染管理の必要性を理解できる	100%
	医療従事者における放射線曝露予防の必要性を理解できる	100%

「がん看護」「フィジカルアセスメント(聴診法)」「放射線療法」「災害看護」(高校3年生)

育てたい力	評価の観点	目標値 (%)
臨地のイメージ力	がんの治療をうけながら生活している患者をイメージできる	100%
	放射線治療の実際をイメージできる	100%
	臨地における聴診法の実際を知り、病院実習においての実践方法をイメージできる	100%
	災害時の看護の実際をイメージできる	100%

「災害看護」(専攻科1年)

育てたい力	評価の観点	目標値 (%)
臨地のイメージ力	災害時の看護の実際をイメージできる 災害時の看護の援助技術をイメージできる	100%

(イ) 定性評価

定量評価を補足するための評価として、感想などからテキストマイニング等の手法を用いて生徒の変容に関する記載内容の変化を分析して評価する。

c. 科学的思考・判断力

(ア) 定量評価

科学的思考・判断力の基礎となる力である「情報を見極める力」「思考スキル」「論理的に考える力」については、毎年度末に行うアンケート調査における生徒の自己評価によるものとし、この1年間で身についた力を「とてもついた」「ある程度ついた」と回答をした生徒の割合を指標とする。

また、学年進行とともに身につける力として、「科学的視点」「文献検索する力」「データ処理する力」「クリティークする力」については、一部に生徒の自己評価を用いるが、教員による評価を基本として、より具体的で客観的な評価の観点を設定して、達成状況を評価する。

平成26年度入学生を対象にして継続的に5年間調査する。

○生徒の自己評価

育てたい力	評価の観点	目標値
情報を見極める力	その情報が真実かどうか考え、判断する力	1年間で身についた力を「とてもついた」「ある程度ついた」と回答した生徒の割合が80%となることを目標とする。
思考スキル	解決するためにむだなものを捨て、重要な事実をもとに考えを組み立てる力	
論理的に考える力	自分の頭と自分の意志で筋道を立てて考える力	

○教員による客観的評価（科学的思考・判断力の活動全体を通して育てたい力）

育てたい力	評価の観点	評価材料	目標値 (%)				
			1年	2年	3年	4年	5年
科学的視点	授業（実験的体験・専門性の高い講座の受講）を通して看護実践におけるエビデンスの大切さがわかる	自己評価表	80%	100%			
文献検索する力	初歩的な文献検索ができる（Ciniiを使って複数の文献検索ができる）	課題提出物		80%	100%		
	先行研究から、研究目的を明確にすることができる					30%	50%
	先行研究から、研究仮説を明確にすることができる					10%	30%
データ処理する力	初歩的なデータ処理の方法を知る（平均値・標準偏差・相関係数）	PC作業状況		80%	100%		
	データの種類に応じてグラフや表の形で可視化することができる（Excelを使って散布図を描く、ヒストグラムを描く）	レポート		80%	100%		

	統計的手法を用いてデータ処理できる（平均値・標準偏差・相関係数を求める）					30%	50%
	統計的手法を用いて検定処理ができる					3%	5%
クリティークする力	研究論文を読んで、評価の視点にそって考えることができる	クリティーク場面			30%	50%	100%
	研究論文を読んで、評価の視点にそって批判的に考え、研究プロセスの妥当性や価値についてある程度評価できる				10%	30%	50%
	研究論文の内容を理解し、研究目的や研究プロセスの妥当性などを多角的に考え、学術的価値について正しく評価できる生徒	レポート					3%

※ 最終学年で課す「看護研究」について、研究プロセスおよび研究の質を評価できる評価規準を検討し、27年度までに完成させる。

d. 生涯学び続ける力

○ポートフォリオの活用

当該活動は、生徒の自己肯定感や看護師としてのキャリア意識の涵養を図るというねらいがあり、重要な活動の一つである。しかし、パーソナルポートフォリオの作成は、生徒の自分史的要素が強く、家庭環境、生育歴等に影響されることが予想されるため、ポートフォリオの中身について評価の対象としないことが適当と判断した。

○プロジェクト学習

(ア) 定量評価

年度末に「育てたい力」に関するアンケート調査を行い、下記の項目についてこの1年間で身についた力を「とてもついた」「ある程度ついた」と肯定的な回答をした生徒の割合が80%となることを指標とする。

平成26年度入学生を対象にして継続的に5年間調査する。

育てたい力	評価の観点	目標値
イメージする力	先を想像し、具体的に予測することができる	1年間で身についた力を「とてもついた」「ある程度ついた」と回答し
課題発見力	状況を判断し、課題を見いだすことができる	
課題解決力	最善の方法を見いだし解決することができる	

コミュニケーション力	他者と意見を交換し、共有することができる	た生徒の割合が80%となることを目標とする。
プレゼンテーション力	伝えたいことを表現し、相手を納得させることができる	

(イ) 定性評価

定量評価を補足するための評価として、感想などからテキストマイニング等の手法を用いて生徒の変容に関する記載内容の変化を分析して評価する。

5. 実施体制

(1) 研究担当者

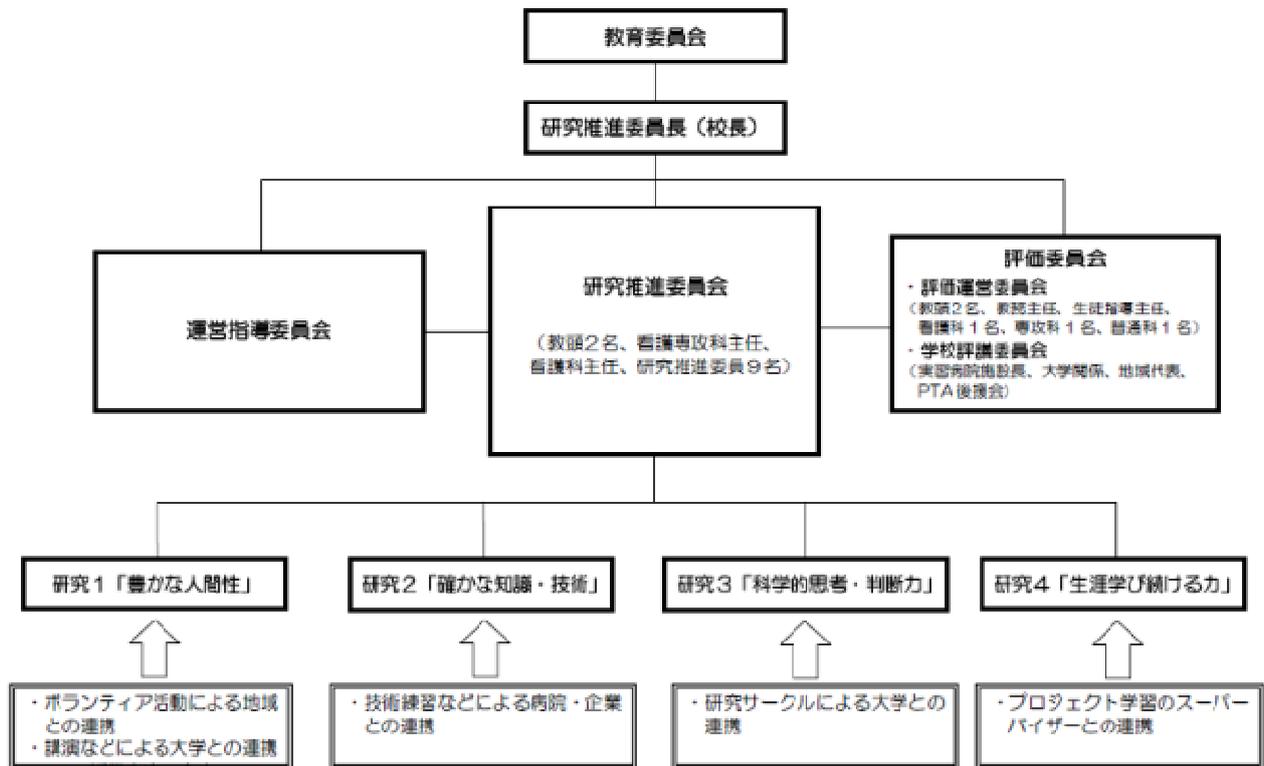
氏名	職名(担当教科)	役割分担
大川 尚子	主幹教諭(看護)	確かな知識・技術
柴山 佳子	教諭(国語)	科学的思考・判断力
田尻 茂樹	教諭(地歴公民)	豊かな人間性
宇田川 健	教諭(数学)	科学的思考・判断力
守屋 典子	教諭(理科)	科学的思考・判断力
沼田 和己	教諭(理科)	科学的思考・判断力
清水 宏一	教諭(保健体育)	豊かな人間性
庄子 学	教諭(英語)	生涯学び続ける力
長濱 はるみ	教諭(看護)	確かな知識・技術
榎本 聖子	教諭(看護)	科学的思考・判断力
織田 千香子	教諭(看護)	生涯学び続ける力
川口 有理	教諭(看護)	科学的思考・判断力
高木 邦子	教諭(看護)	科学的思考・判断力
三津橋 佳子	教諭(看護)	確かな知識・技術
守屋 有紀	教諭(看護)	豊かな人間性
大貫 由美子	教諭(看護)	生涯学び続ける力
大塚 御幸	教諭(看護)	生涯学び続ける力
大塚 真弓	教諭(看護)	豊かな人間性
佐々木 あゆみ	教諭(看護)	確かな知識・技術
高橋 千尋	教諭(看護)	確かな知識・技術
藤井 敦子	教諭(看護)	豊かな人間性
油目 久美子	教諭(看護)	確かな知識・技術
川畑 清美	教諭(看護)	豊かな人間性
柴田 江美子	教諭(看護)	豊かな人間性
伊藤 玲子	教諭(看護)	生涯学び続ける力
伊藤 栄子	教諭(看護)	科学的思考・判断力
村田 ひろみ	教諭(看護)	豊かな人間性

安藤 志津子	教諭（看護）	科学的思考・判断力
小平 栄子	教諭（看護）	豊かな人間性
黒川 章子	教諭（看護）	確かな知識・技術
井筒 路子	教諭（看護）	生涯学び続ける力
古場 真理子	教諭（看護）	豊かな人間性
川田 礼子	教諭（看護）	生涯学び続ける力
松尾 直美	教諭（看護）	確かな知識・技術
中澤 瑞果	教諭（看護）	確かな知識・技術
新井 真裕美	教諭（看護）	生涯学び続ける力
松村 理恵	助教諭（看護）	確かな知識・技術
山下 実江	助教諭（看護）	生涯学び続ける力
工藤 千恵子	助教諭（看護）	生涯学び続ける力
門井 すみれ	助教諭（看護）	科学的思考・判断力
山崎 章子	養護教諭	豊かな人間性
千葉 尚子	実習教員	科学的思考・判断力
堤 映子	主任実習教員	確かな知識・技術
新井 久枝	主任実習教員	科学的思考・判断力
穴戸 由子	主任司書	豊かな人間性

（２）研究推進委員会

氏 名	職名（教科）	役割、分掌等
秋山 淳	教頭	
缸 秀年	教頭	
三津橋 佳子	教諭（看護）	「確かな知識・技術」研究班チーフ、研究推進委員副事務局長、看護科主任
柴田 江美子	教諭（看護）	専攻科主任
清水 宏一	教諭（保健体育）	看護科1年学年主任
山崎 章子	養護教諭	「豊かな人間性」研究班チーフ
守屋 有紀	教諭（看護）	研究推進委員事務局長
榎本 聖子	教諭（看護）	「科学的思考・判断力」研究班チーフ、看護科2学年主任
織田 千香子	教諭（看護）	「生涯学び続ける力」研究班チーフ
大川 尚子	主幹教諭（看護）	「記録・広報」チーフ、看護科3学年係
高木 邦子	教諭（看護）	教務主任
大貫 由美子	教諭（看護）	看護科1学年係
大塚 御幸	教諭（看護）	看護科2学年係
佐々木 あゆみ	教諭（看護）	記録・広報
古場 真理子	教諭（看護）	専攻科2学年係
中澤 瑞果	教諭（看護）	記録・広報、専攻科1学年係

(3) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

※ 4. に記載した内容別に実施時期を記載

平成27年度 埼玉県立常盤高校SPH実施計画													
研究内容	実施時期												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
豊かな人間性	高1	花を植える		地域との連携 ボランティア活動体験					花を植える				
	高2			地域との連携 ボランティア活動体験									
	高3	地域・外部 機関との 連携		大学との連携 被災地ボランティアスタディツアー (蘆石市)							地域との連携		
	高3		地域との連携 ボランティア活動体験					ボランティア 活動報告(産業教 育フェア)			ボランティア 活動報告(地域)		
	専1		大学との連携 被災地ボランティアスタディツアー (蘆石市)		生命倫理に関する コラボ授業						ボランティア 活動報告(地域)	大学との連携 生命倫理 (講義)	
	専2			生命倫理に関する プロジェクト学習									
確かな知識・技術	高1	e-ラーニング活用授業・協同学習											
	高2	e-ラーニング活用授業・協同学習											
	高3			病院との連携 フィジカルアセスメント						病院との連携 (放射線)		病院との連携 (がん看護)	
	専1	e-ラーニング活用授業・協同学習											
	専2	e-ラーニング活用授業・協同学習											
	科学的思考・判断力	高1	看護技術に関する実験的学習経験										
高2		プロジェクト学習の手法を用いた研究的学習活動											
高3				実験的経験 (文献検索)	大学との連携 データ分析 (実験・講義)		大学との連携 (実験・講義)		大学との連携 (実験・講義)				
専1		研究的学習活動											
専2		看護研究											
生涯学び続ける力		高1	ポートフォリオの 活用・プロジェク ト学習あり	チームプロジェクト学習 「ときわ防災マニュアル を作る！」	マイプロジェクト学習「大切な人の健康を守る提案をします！」						公開プレゼンテーション(地域・病院・保護者)		
	高2	ポートフォリオの 活用・プロジェク ト学習あり	チームプロジェクト学習「私たちが見つけたエビデンスに基づいた看護技術を提案します！」										
	高3	プロジェクト学習											
	高3	マイプロジェクト学習「臨地実習を乗り越えるストレス解消法を提案します！」											
	専1	プロジェクト学習											
	専2	チームプロジェクト											

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載